



2015年度上期 決算説明会

2015.11.13

明治ホールディングス株式会社

1. 2015年度 上期総括
2. セグメント別概況と見通し
3. 2015年度 下期・通期計画

- ・ 本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- ・ 本資料には、医薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

STEP UP¹⁷



基本方針

成長の加速とさらなる収益性向上

1. 優位事業の強化と新たな成長への挑戦
2. 環境変化に対応しうる収益力の強化
3. グローバル展開の推進
4. 経営基盤の進化

数値目標

	2017年度 (5/12発表)
売上高	1兆2,600億円
営業利益 (率)	640億円 (5%)
ROE	8%以上

2015年度 上期総括



(単位:億円)

		期初計画 (5/12発表)	修正計画 (8/5発表)	実績	修正計画比	前年同期比
連結	売上高	5,780	5,900	5,923	+0.4% +23	+5.9% +330
	営業利益	190	270	334	+23.7% +64	+76.0% +144
	営業利益率	3.3%	4.6%	5.6%	+1.0pt	+2.2pt
	親会社株主に帰属 する四半期純利益	208	295	331	+12.3% +36	+163.0% +205
食品	売上高	5,028	5,148	5,171	+0.4% +23	+2.7% +137
	営業利益	167	247	287	+16.4% +40	+64.9% +113
医薬品	売上高	762	762	761	Δ0.1% Δ0	+34.1% +193
	営業利益	22	22	49	+120.2% +27	+212.4% +33

- 前年同期比で増収増益を達成
- 8月に発表した修正計画を上回る成長



2. セグメント別概況と見通し

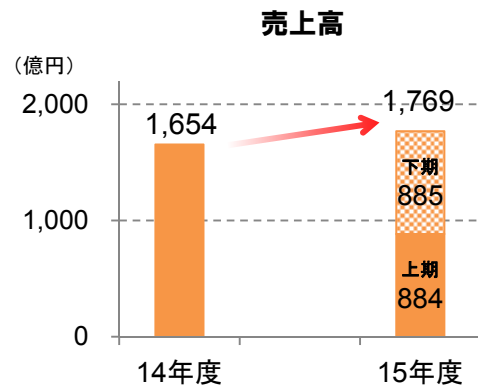
2015年度 上期セグメント別総括



(単位:億円)

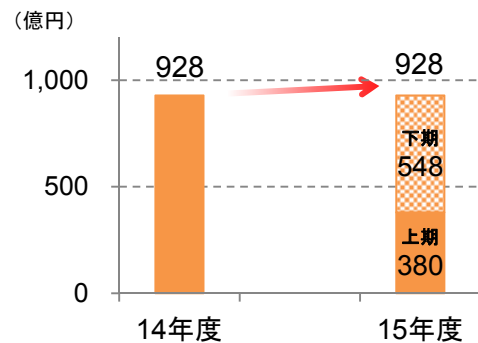
【営業利益】		期初計画 (5/12発表)	修正計画 (8/5発表)	実績	修正計画比	前年同期比
食品	発酵デイリー	137	174	177	+1.7% +3	+34.1% +45
	加工食品	24	33	35	+3.7% +1	+114.3% +18
	菓子	16	23	26	+14.2% +3	+0.9% +0
	栄養	27	40	55	+34.9% +14	+125.4% +30
	その他	△4	4	11	+148.8% +7	+2,973.5% +11
医薬品		22	22	49	+120.2% +27	+212.4% +33

- 食品・医薬品の全事業において、前年同期比で増益を達成

プロバイオ
ヨーグルト

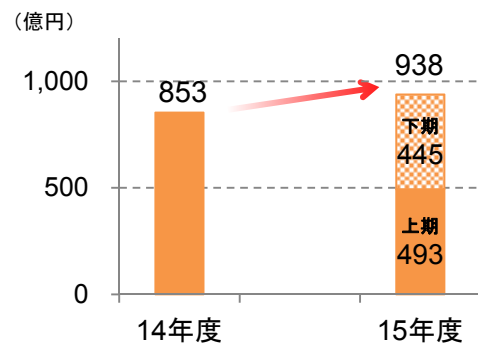
- 市場：食シーンが拡大し、成長続く
- プロバイオは生産能力増強し、3品で安定成長
- ブルガリアはプレーンとドリンクが牽引

チョコレート



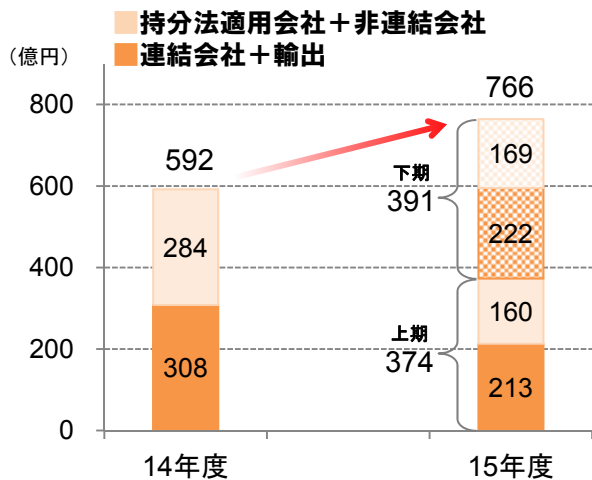
- 市場：高価格帯を中心に拡大
- 一部は価格改定の影響あるも、全体では堅調
- 高付加価値品へシフトし、プロダクトミックスが改善したことで収益改善も進む

栄養事業



- 市場：息の長い成長見込む
- 粉ミルクや「アミノコラーゲン」は、インバウンド需要も取り込みながら安定成長
- スポーツ栄養、市販流動食は付加価値訴求で市場を創造し、新たな成長ステージへ

食品セグメント 海外売上高



明治ブルガリアヨーグルト (加糖) 180g



明治伏燻殺菌型乳酸菌飲料 950mL

- 中国アイスクリーム事業を新規連結
- 収益力アップに向けて中国の拡大がカギ

中国
ヨーグルト・牛乳

- 販売エリアを青島、北京などに拡大
- 中容量カップヨーグルトや乳酸菌飲料など、商品ラインアップも拡充
- 拡大する市場で、さらに取り組みを深耕

中国
菓子

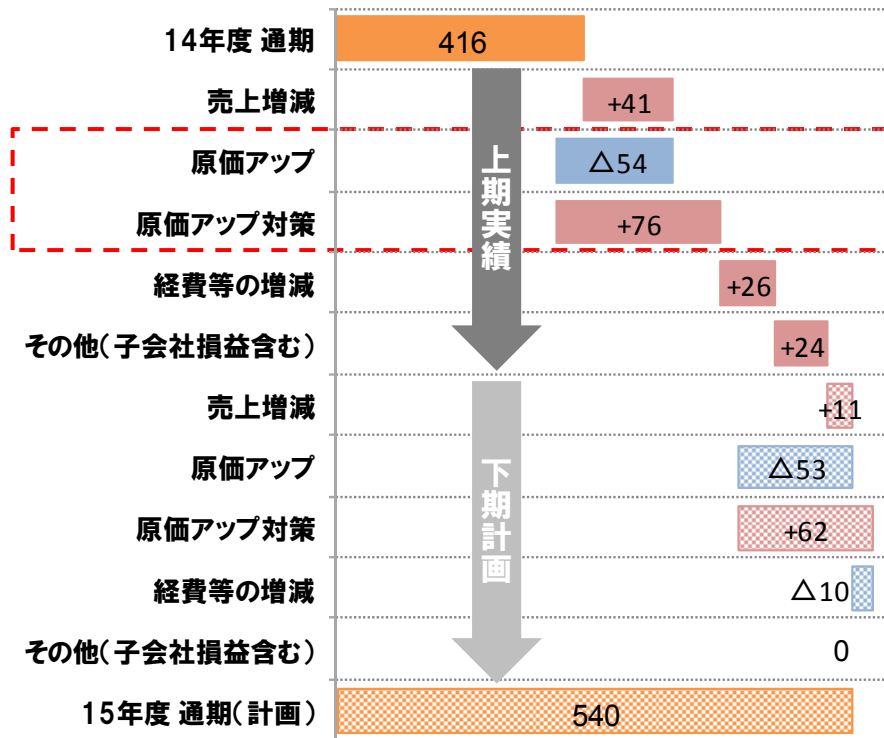
- 取扱い店舗を拡大
- 最需要期を迎える国内での成長
- 近隣国・地域への輸出増

中国
アイスクリーム

- 新工場稼働で生産能力は向上
- 強い商品群に絞り、効率的に展開

食品セグメント 営業利益の増減

(単位:億円)



● 原材料・エネルギーコスト増に対し、価格改定を実施

改定月	品目	改定率/減量率
15年3月	アイスクリーム	+8.3-10.5%
15年4月	ヨーグルト	+2-6%
	牛乳	+2-5%
	チーズ	+6.8-8.2%
	チョコレート	+10%/△2-13%
15年7月	チョコレート	+10-20%/△2-12%

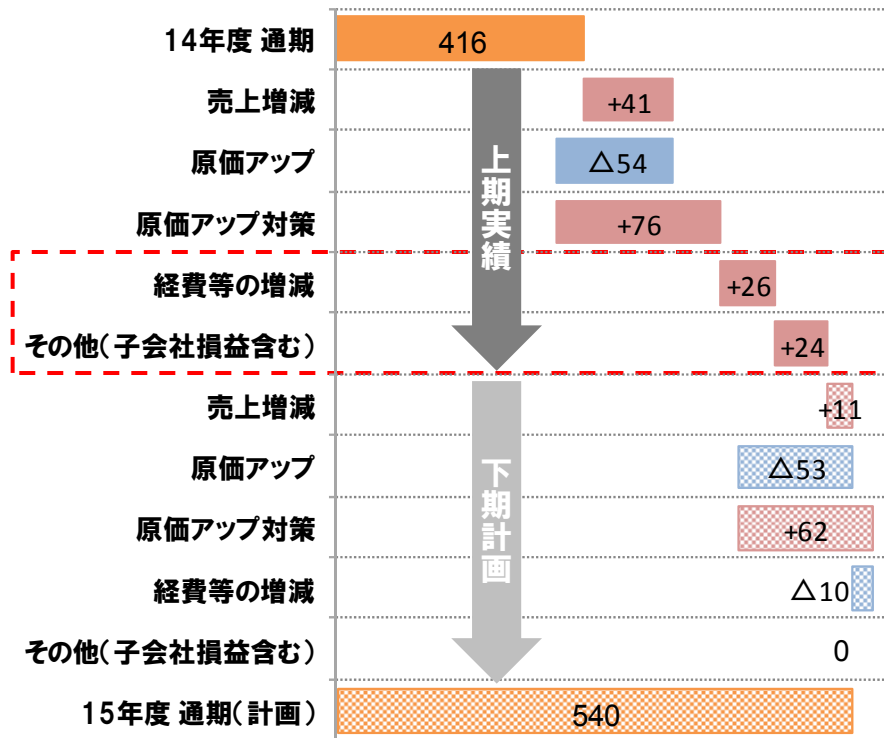
- 食品各社も価格改定
- 消費者物価は足踏み傾向

見通し

- 為替が安定して推移すれば、輸入原材料相場の一部は下落
- 価格競争激化の懸念
- 付加価値の高いコア商品への「選択と集中」を進める戦略を継続

食品セグメント 営業利益の増減

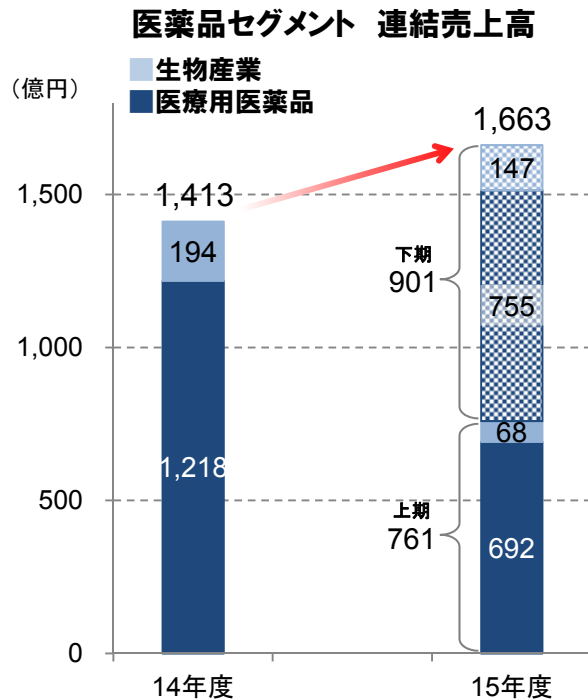
(単位:億円)



- 生産性向上の取り組みは、計画に沿って着実に実行
 - 商品数の削減
 - 生産体制の効率化
 - 物流効率化
- 原材料高への対応が遅れていた子会社群も収益改善進む

見直し

- 食品事業全体で、既存品も含めて商品数を削減
- コア商品を中心に積極的なマーケティング活動を実施
- グループ会社を含めた構造改革に着手



感染症・中枢神経系(CNS)

- 両領域とも前年を上回る推移
- 感染症：GEを含めて薬剤ラインアップを充実
幅広い処方提案を展開
- CNS：「リフレックス」の最大化
営業体制強化によるプレゼンス向上

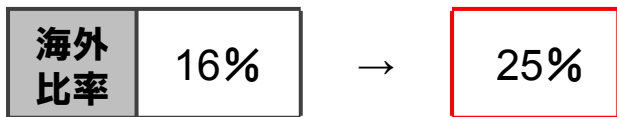
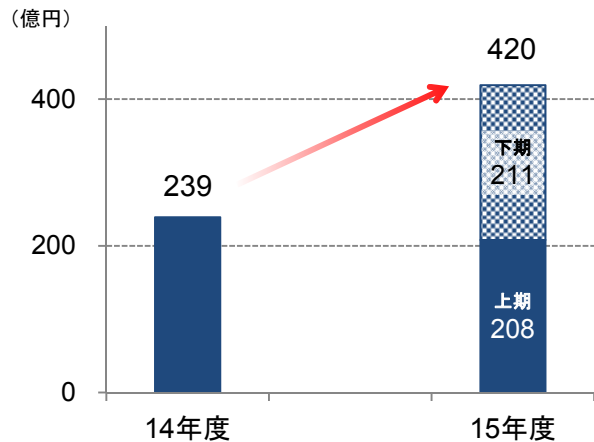
ジェネリック医薬品

- 6月発売品目も加わり、前年を大きく上回る
- 市場拡大は続くが、価格競争は激化
- 「品質保証」「安定供給」「情報提供」を強化
単価下落への対応と供給力確保が重点課題

生物産業
(農薬・動物薬)

- 一時期の低迷を脱し、前年を上回る
- 引き続き、収支構造改革を推進

医薬品セグメント 連結海外売上高



(注) 単体の輸出事業および連結対象となっている海外グループ会社の売上高(消去後数値)

メドライク事業

● メドライクは前期4Qから新規連結

日本向け製剤生産

- GEの数量シェア引き上げに対応し、メドライクの供給能力をフルに活用(30億錠以上を製造)
- インドネシアなど海外子会社での日本向け製剤生産の経験を活用
- 人的交流や投資を積極的に行い、日本向け製造・品質保証体制構築を着実に進行

CMO・CDMO事業

- メドライクが強みを持つ事業
- 世界的にCMO需要は拡大
- グローバル大手製薬企業からの受託を核にした成長が続く

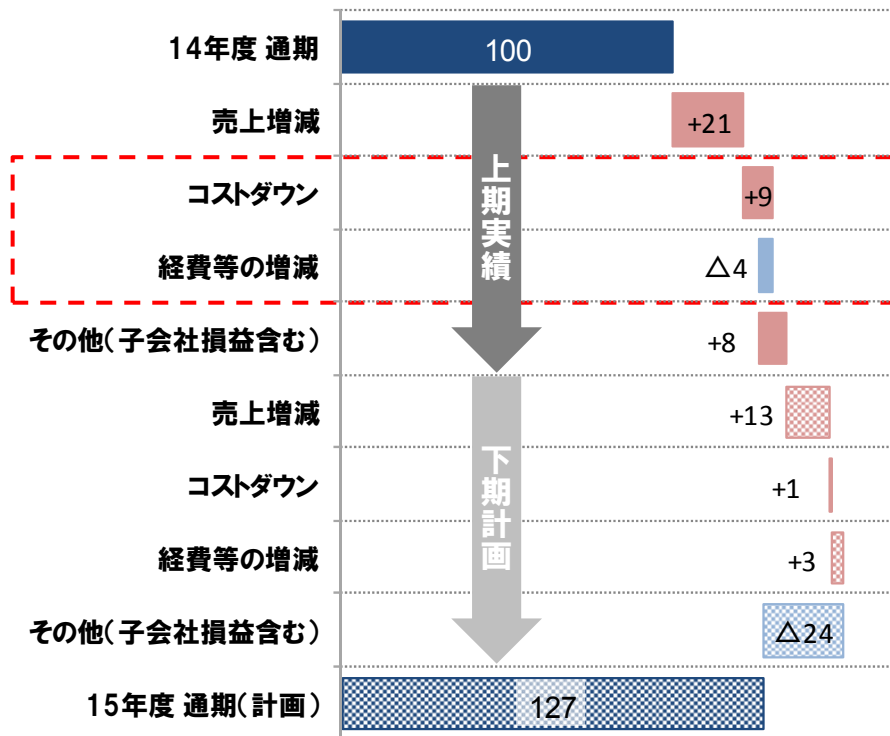
既存事業

- 「メイアクト」が回復基調
- 海外子会社でのメドライク製品の販売可能性を探索中

現在のパイプライン (◆自社開発)		15年度	16年度	17年度	
医療用医薬品	感染症	ME1111【爪真菌症治療薬】◆	Phase II (海外)		
		ME1100 アルベカシン【院内感染肺炎/人工呼吸器関連肺炎治療薬】◆	Phase I (海外)		
		OP0595【β-ラクタマーゼ阻害薬】◆	導出		
	中枢神経系	SME3110 フルボキサミン適応拡大【強迫性障害治療薬(小児)】	Phase III	申請	
		ME2136 アセナピン【統合失調症治療薬】	申請		
		リフレックス適応拡大【線維筋痛症治療薬】			
		ME2112 ジブラシドン【統合失調症治療薬】	Phase III		
		ME2125 サフィナミド【パーキンソン病治療薬】		Phase II/III	
	新領域	レザフィリン適応拡大【食道癌治療薬】	申請	※2015年5月に承認	
		ME3113 ウデナフィル【前立腺肥大症治療薬】	Phase II	Phase III	申請
		DMB-3111【トラスツマブ(バイオ後続品)】			
	生物産業	農薬	ME5343【殺虫剤】 BASF社とライセンス契約	申請 (海外)	
			ANM-138【殺虫剤】	申請	
		農業用殺菌剤 Dow AgroSciences社と共同開発	申請 (海外)		
		ME5382【殺虫剤】		申請 (海外)	

医薬品セグメント 営業利益の増減

(単位:億円)



- 原価低減や経費削減などのローコストオペレーションを推進

見直し

- 将来に向けたR&D投資や戦略投資は、一定の範囲で積極的に実施する方針
- 前年下期の一時金の影響はあるが、売上増による利益増とローコストオペレーションによる収益性向上を目指す



3. 2015年度 下期・通期計画

2015年度 計画



(単位:億円)

		上期		下期		通期	
		実績	前年同期比	計画	前年同期比	計画	前年同期比
連結	売上高	5,923	+5.9% +330	6,161	+2.4% +142	12,085	+4.1% +473
	営業利益	334	+76.0% +144	330	+1.6% +5	665	+29.0% +149
	経常利益	355	+80.7% +158	334	△1.4% △4	690	+28.8% +154
	親会社株主に帰属する当期純利益	331	+163.0% +205	203	+11.4% +20	535	+73.2% +226
食品	売上高	5,171	+2.7% +137	5,271	+1.7% +87	10,443	+2.2% +224
	営業利益	287	+64.9% +113	252	+4.2% +10	540	+29.6% +123
医薬品	売上高	761	+34.1% +193	901	+6.6% +55	1,663	+17.7% +249
	営業利益	49	+212.4% +33	77	△8.7% △7	127	+26.0% +26

(単位:億円)

	上期実績		通期計画	
		前年同期比		前年同期比
連結	設備投資額	241 Δ15.3% Δ43	508 Δ21.1% Δ135	
	減価償却費	197 Δ1.0% Δ2	408 Δ2.5% Δ10	
	研究開発費	129 +8.2% +9	281 +7.9% +20	
	フリーキャッシュフロー	465 +980.8% +422	540 — +603	
	有利子負債	1,796 (前期末比) Δ18.9% Δ418	— —	
	ROE (不動産売却の影響除く)	— —	11.0% +2.0pt	
	1株あたり配当金	55円 +15円	110円 +10円	

※不動産売却益を
加味したROEは
13.7%の見込み


- フリーキャッシュフローは大幅増
- 主な投資:
 - ・新愛知工場(市乳)
 - ・プロバイオヨーグルト製造ライン増設

(注1) 投資額は無形固定資産、戦略投資を含む支払いベース

(注2) 減価償却費は無形固定資産も含む

(注3) 計画は2015年11月10日発表

(注4) 通期配当は株式分割前の株式数ベースで算出した額



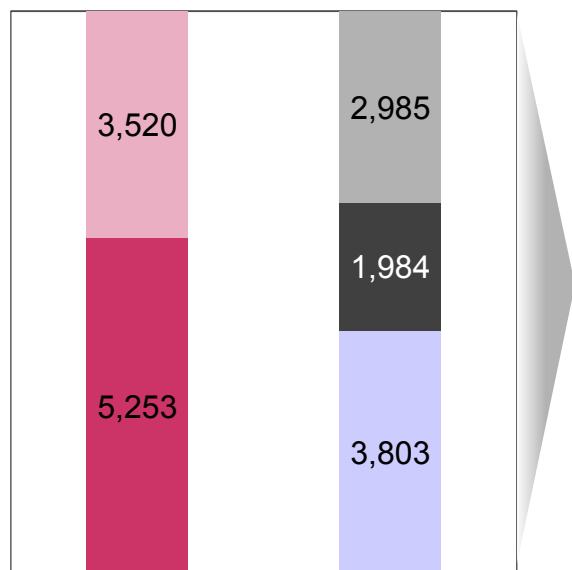
赤ちゃんからお年寄りまで、
あらゆる年齢層のお客さまへ、
食のおいしさ・楽しさや、
心身両面での健康価値の提供を通して、
お客さまの生活充実に貢献していく企業グループ

meiji

参考資料

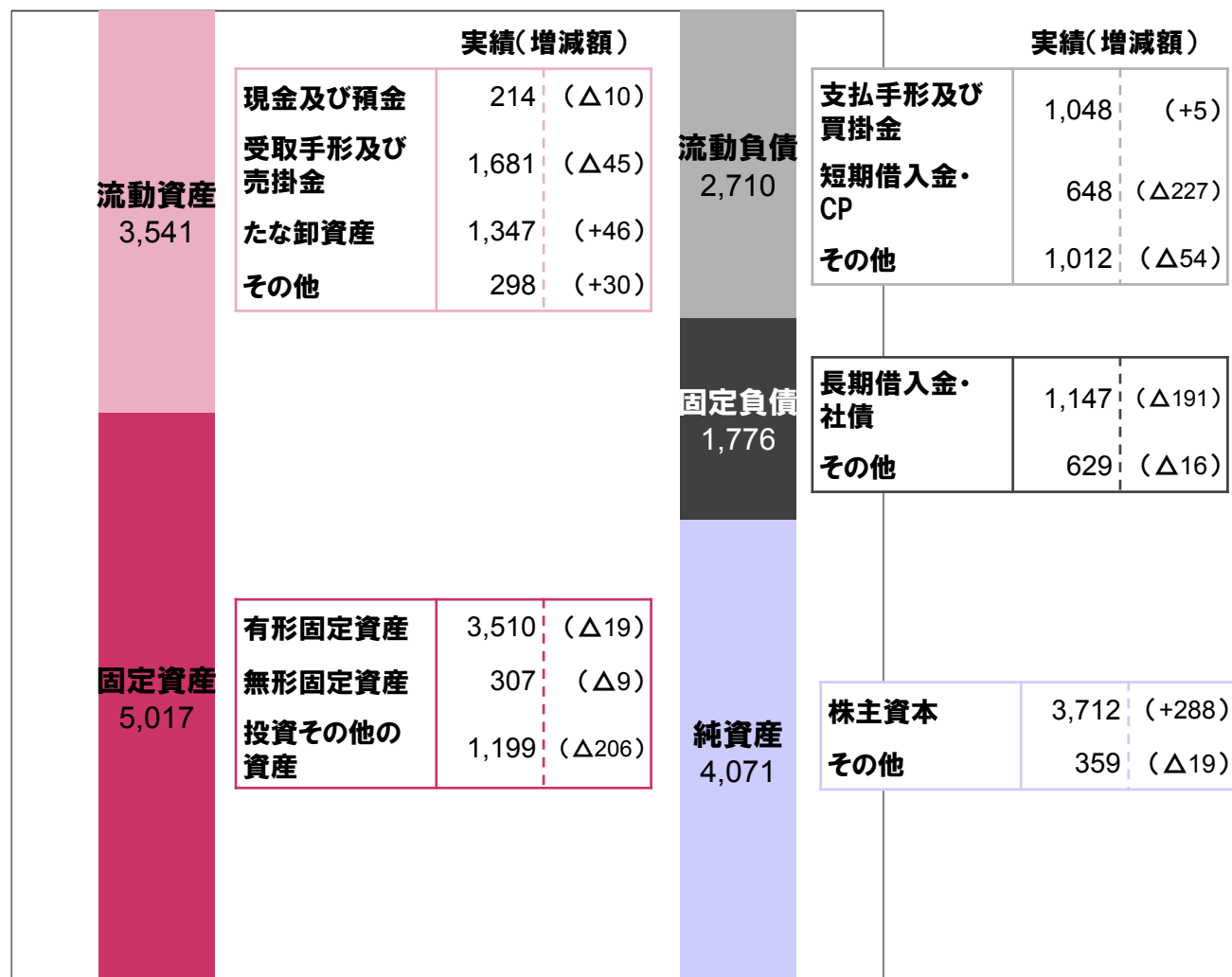
2015年度 上期財政状態

2015年3月末 総資産: 8,773億円



自己資本比率: 42.2%

2015年9月末 総資産: 8,558億円



自己資本比率: 46.4%

2015年度 食品セグメント内 事業別計画



(単位:億円)

		上期		下期		通期	
		実績	前年同期比	計画	前年同期比	計画	前年同期比
発酵 デairy	売上高	2,486	+4.1% +98	2,337	Δ2.9% Δ69	4,824	+0.6% +29
	営業利益	177	+34.1% +45	153	+1.2% +1	330	+16.5% +46
加工食品	売上高	985	Δ1.3% Δ12	940	Δ0.7% Δ6	1,925	Δ1.0% Δ19
	営業利益	35	+114.3% +18	21	+9.4% +1	56	+57.8% +20
菓子	売上高	701	+0.2% +1	885	Δ0.5% Δ4	1,586	Δ0.2% Δ2
	営業利益	26	+0.9% +0	69	+0.4% +0	95	+0.5% +0
栄養	売上高	493	+16.4% +69	445	+3.6% +15	938	+9.9% +84
	営業利益	55	+125.4% +30	23	+7.1% +1	78	+70.0% +32

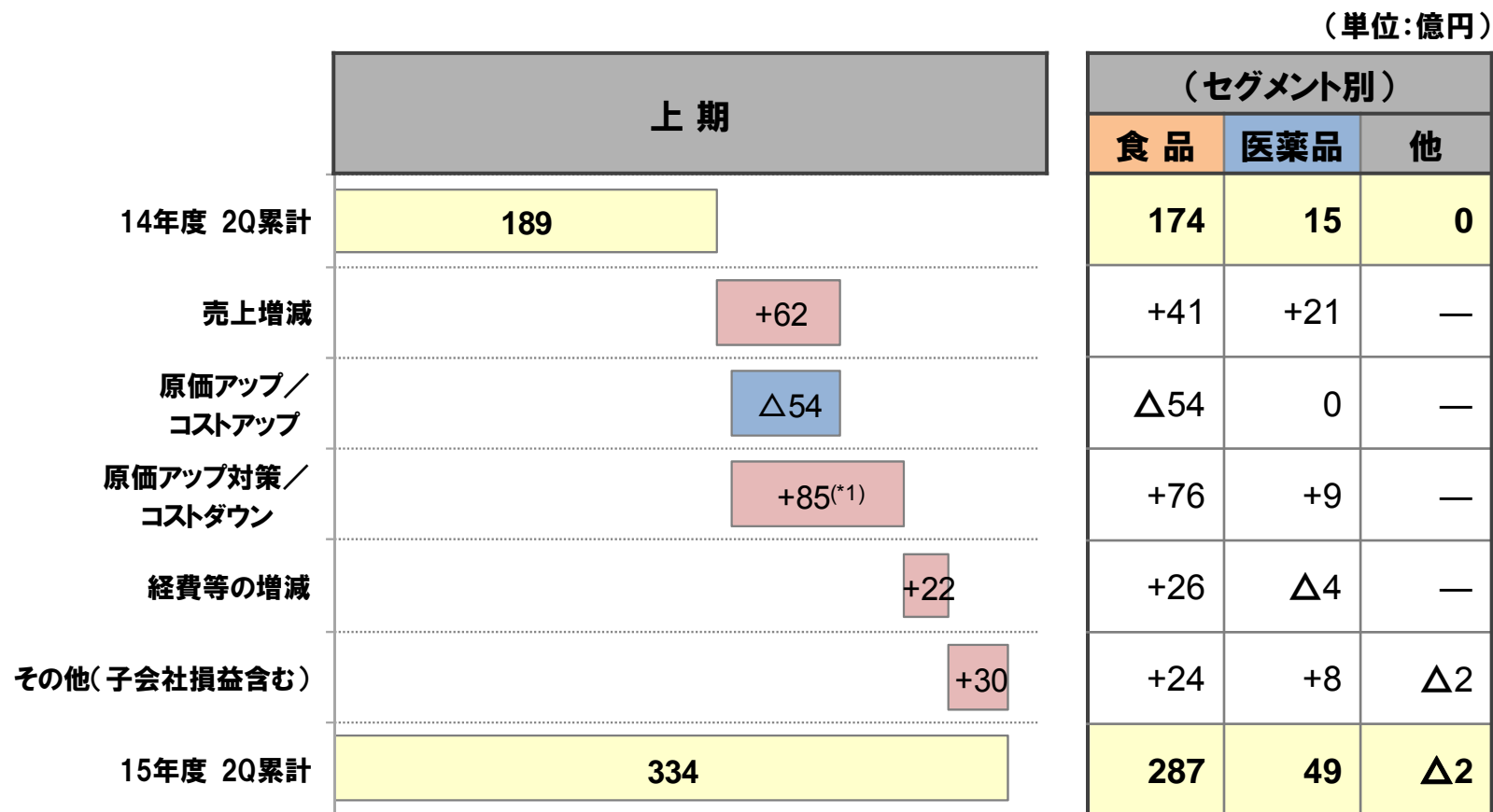
2015年度 食品セグメント内 事業別計画



(単位:億円)

		上期		下期		通期	
		実績	前年同期比	計画	前年同期比	計画	前年同期比
その他	売上高	1,712	+1.5% +25	1,847	+7.7% +131	3,560	+4.6% +156
	営業利益	11	+2,973.5% +11	14	+278.6% +10	25	+534.9% +21
全社費用 消去および	売上高	△1,208	— △44	△1,184	— +21	△2,392	— △22
	営業利益	△18	— +6	△27	— △5	△45	— +1

2015年度上期 営業利益 増減分析



*1: 主な内訳 … **【食品】** 発酵デューシー 商品政策等+34、加工食品 商品政策等+34
【医薬品】 原価低減+9

2015年度通期 営業利益 増減分析



(単位:億円)

